

展覧会情報

「In the spiral - 渦の中に」

張 平成 , 西久松 友花

会期：11 月 21 日(金)–12 月 21 日(日)

レセプションパーティ：11 月 21 日 (17 時–20 時)

会場：Eunoia 新設ギャラリースペース

(〒657-0033 兵庫県神戸市灘区徳井町 5 丁目 1-1 ファミリーハイツ徳井 103)

営業時間：12 時–19 時（月火休み）

In the spiral - 渦の中に

張 平成 , 西久松 友花

この度、Eunoia は兵庫県神戸市灘区にギャラリースペースを新設します。

Eunoia では神戸市灘区に新設しますギャラリースペースの柿落としの展示として、張平成と西久松友花による二人展「In the spiral - 渦の中に」を開催します。

張 平成は中華人民共和国江蘇省無錫市に生まれ、現在は千葉県に拠点にしています。名古屋造形大学造形学部洋画コースを卒業後、多摩美術大学博士前期 (修士課程) 油画専攻を修了しました。無錫市の江南形式的の水上庭園が有名な場所で生まれ、東京都 23 区ほどの面積がある湖である太湖の近くで水上庭園の瓦や湖を眺めながら育ちます。単に画材と支持体を用いるのではなく、自然的な要素も作品に取り入れながら記憶の断片を留めるようにキャンバスに起こしていきます。

西久松 友花は京都府亀岡市出身、現在は清水焼団地に拠点を構えます。京都市立芸術大学美術学部工芸科陶磁器専攻を卒業後、同大学大学院美術研究科修士課程工芸専攻陶磁器を修了しています。多彩な色彩と細部にわたる繊細な装飾が特徴の陶磁器による作品を制作しています。仏教思想やモチーフからその生の循環について考察していますが、近年のシリーズではそこからさらに生き物にフォーカスが絞られ、川床に生きる小さな虫や目に見えない微生物をモチーフにして生き物の痕跡やそこに生きた証を土を使って表現しています。

生きるということについて、また日常の循環や変化の中で見落とされそうな物質や心情は張と西久松の両者の作品の中で重要視されています。二人の作品は鑑賞者にそれぞれ自身の物語を通してさまざまな感情を想起させます。

本展ではライフワークとして常に毎日少しづつ書き続ける張の新作の大型絵画と、西久松が信楽のレジデンスで制作を続ける大型作品を中心とした作品が展開されます。それぞれ異なるメディウムを用いて表現する二人の渦から、我々の生命や生きることについての問いを投げかけます。

PROFILE

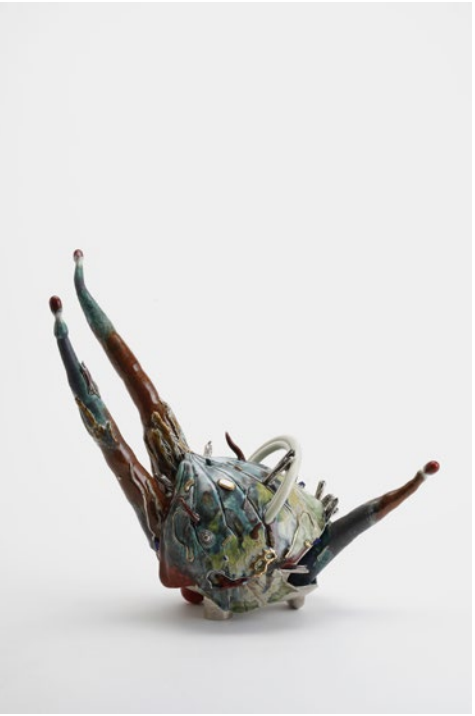
西久松 友花

1992 年、京都府亀岡市に生まれる。2016 年に京都市立芸術大学美術学部工芸科陶磁器専攻を卒業後、2018 年、同大学大学院美術研究科修士課程工芸専攻陶磁器を修了。画家である両親のもとで幼少期を過ごし、自然の中でのスケッチに同行する体験を通して、早くから「観察」と「表現」を結びつける感覚を育んだ。生まれ育った亀岡は、山々に囲まれた地形と寒冷な気候により濃い霧が立ちこめる土地として知られる。その幻想的で時に不可視の世界を思わせる環境は、西久松に深い感受性を与え、後の制作において重要なインスピレーションの源泉となっている。

陶芸を中心とする西久松の作品は、土という最も根源的な素材に対して鋭敏な感覚を持ちながら、豊かな色彩と緻密な装飾性を特徴とする。日本の仏教文化や古代から受け継がれてきた造形物、宗教的なシンボルに影響を受けつつ、それらを単なる引用としてではなく「再構築」や「再解釈」として作品に取り込み、現代の文脈において新たな生命を吹き込むことを目指している。

その根底には、仏教思想に通底する「生と死の循環」への探求がある。かつては遺物や宗教的なアイコンを題材にしてきたが、近年ではその視線をより小さなスケールへと移し、川床に棲む微細な虫や肉眼では捉えにくい微生物といった、極小の存在に焦点を当てている。彼女はそれら「目に見えぬ命の痕跡」を土を介して可視化し、その一瞬の生が確かに存在した証を造形へと昇華している。

西久松の制作は、伝統的な陶芸技法に根差しながらも、現代における生の多層性や儚さを表現する試みである。霧に包まれた故郷の風景から、歴史や信仰に連なる記憶、そして微細な生命の営みへ——彼女の作品は、眼前にあるものの奥に広がる見えない世界へと、私たちの感覚を導く。



蘇生 Rebirth, 2025
Porcelain , glaze, gold, platinum
W412×D210×H440mm
photo by Takeru Koroda



仮の足 Temporary Legs, 2025
Porcelain , glaze, gold, platinum
H415×W110×D40mm
photo by Takeru Koroda



翅の行方 Whereabouts of wings, 2025
Porcelain , glaze, gold, platinum
H220×W410×D170mm
photo by Takeru Koroda

PROFILE

張 平成

張平成は 1992 年、中華人民共和国江蘇省無錫市に生まれる。2020 年に名古屋造形大学造形学部洋画コースを卒業後、2022 年多摩美術大学博士前期 (修士課程) 油画専攻を修了。無錫市は太湖という東京都 23 区ほどの面積の湖があり、江南形式のいわゆる水上庭園が広がっている。そこに佇む瓦、そして広大な湖を見て育った張はたびたび瓦や水にまつわるモチーフを絵画に残している。近年の作品では身の回りの日常に溢れる風景や心情の変化をキャンバスに書き留めるように絵画を制作している。そのスタイルはキャンバスをいくつもスタジオにおきながらまるでそれらを日々育てるようにして少しずつ線を足したりモチーフを付け足して作品に仕上げていく。また単に一般的な画材と支持体を用いるのではなく、海水や土など自然的な要素を作品に取り入れ現実が存在したモチーフを記憶の断片を残すように絵画を構成していく。瓦や小さな船のようなモチーフ、張の故郷の様子が伺える作品は哀愁のような雰囲気漂わせている。直近のシリーズでは絵画の面にとどまらず、キャンバスの切れ端や他の布を使って絵画を構成する一つのモチーフを作っている。作品によっては裏側まで絵の具を施しているものもあり、絵画とはなんなのか、という普遍的テーマにも挑戦している。近年の主な活動に個展「海岸の枝」(See Saw gallery+hibit、2024)、個展「ほとりを歩く」(second2、2022 年) など。



海岸を歩く 7-13, 2025
mixed media, H410 × W610 mm



Untitled (23-25), 2025
mixed media, H330 × W240 mm



かわら 25-1, 2025
mixed media, H370 × W280 mm

展覧会情報

「In the spiral - 渦の中に」

張 平成 , 西久松 友花

会期：11 月 21 日(金)–12 月 21 日(日)

レセプションパーティ：11 月 21 日 (17 時–20 時)

会場：Eunoia 新設ギャラリースペース

(〒657-0033 兵庫県神戸市灘区徳井町 5 丁目 1-1 ファミリーハイツ徳井 103)

営業時間：12 時–19 時（月火休み）

In the spiral - 渦の中に

張 平成 , 西久松 友花

ギャラリープロフィール

2023 年にEunoiaの活動を開始し、約3年が経ちました。これまでさまざまな作家、コラボレーター、そして支えていただいている方々と共に活動してきました。新設するギャラリースペースではEunoiaというコミュニティのベースとなっていくことを目指します。ここでは定期的に作家、キュレーター、コラボレーターの方々と共に企画を行い、コミュニティの基礎として地盤を作っていきます。

これまでの活動

HIBIYA OKUROJI ARTFAIR, Tokyo, 2023

AFFORDANCE @KITAHAMA N GALLERY (with PAGIC), Osaka, 2023

TRILOGY @NUMERO. 51 (with NUMERO. 51), Milan, Italy, 2024

NAR 周縁の距離 @BUoY (with Pause One, hide gallery, Gallery Crossing, Kazuya Sakata, LAD Gallery), 2025

SPRING/BREAK ART SHOW, New York, United States, 2025

Rooms of Your Own with NAYAZ @NAYAZ, Shibuya, Tokyo, 2025

Collaborator: PAGIC Gallery, Numero.51, Pause One, hide gallery, Gallery Crossing, Kazuya Sakata, LAD Gallery, NAYAZ ...

情報掲載の際はご一報いただけますと幸いです。

告知素材のダウンロードはこちらからお願いいたします。

担当：北西佳輔

メールアドレス：k@eunoia-gallery.com

TEL: 080-1470-2052

